

農林水産大臣賞（地域振興部門）

あいとう直売館（滋賀県東近江市（ひがしおうみし））
～「足りないものは、地域で作ろう」の合言葉で、生産品目を拡大～

組織概要

○代表者 会長 野村 秀一郎 ○所在地 滋賀県東近江市
○構成員 生産者245名・消費者538,391名・その他11名 ○活動開始年 平成 7 年



受賞のポイント

- 直売館が地域の核となり、地域の農業生産品目の拡大(70 品目→336品目)や新商品の開発を進めることで、東近江ブランドが消費者に認知され、農家の所得向上に大きく貢献。
- 地域のJA、NPO、行政と連携し、農家民宿、農家レストランの支援、後継者育成のための栽培指導、農業体験などの食育活動、学校給食への食材供給等の活動を進めることで地域の雇用と賑わいを創出している。

取組内容

■取組みの経緯・成長の契機

- ◆昭和61年に、農家所得を高めるため、農家によるテントでの直売活動が始める。平成7年に道の駅「あいとうマーガレットステーション」を開設し、「あいとう直売館」を設置。この出荷組織として「あいとう直売館運営協議会」が発足。テント直売から30年、直売館としては20年と地域に根付いた活動となっている。
- ◆「足りない物は、地域で作ろう」を合言葉に、会員に栽培指導を行う「**売れる野菜塾**」等の開催を通じて、新たな野菜づくりや品質向上を進めることで、会員のやる気に繋がり、当初は**地元で生産されている農産物が**70品目のところ、**現在は336品目にまで拡大**し、東近江ブランドの農産物の販売拠点となっている。

■取組みの特徴・活動の強み

- ◆会員は品目毎の部会に所属し、**各会で研修の実施やルールづくりを進め**、農産物は出荷1週間前に栽培履歴の提出を義務付け、フルーツ類は糖度検査で基準を満たさないと販売できないなど、**商品の安全及び品質管理を徹底**。
- ◆施設周辺の田畑約2.3haを借り、季節ごとに菜の花、ラベンダー、ひまわりなどの花畑にして地域全体の景観づくりに貢献するとともに、その景観を活かしたイベントを通じて、農産物や加工品の魅力を消費者にPRしている。
- ◆冬期の品不足対策として商品加工グループを数多く立ち上げ、梨飴、トマトドレッシング、ぶどう酢、ブルーベリージャム、ドライフラワー、ハーブ苗など**生産者を中心とした6次産業化による新商品が多く誕生**し、お店の魅力につなげている。

■地域への貢献・波及効果

- ◆年間販売額は5億2千万円に上がり、**会員1人当たりの年間売上は200万を超え、会員農家の収入が大きく向上した**。
- ◆JA湖東、NPO法人愛のまちエコ倶楽部や行政と連携した、農家民宿及び農家レストランの支援、農業体験等の食育活動等を実施することで、地域の**交流人口は10万人から50万人に増加し、直売館を通じて地域の雇用や賑わいも創出**している。